

イベント情報

event

詳しくは、ウェブサイトをチェックしてください。

期間限定特別体験プログラム



山梨ジュエリーミュージアムでは、イベントの多いこの時期にあわせて、期間限定、数量限定の特別体験プログラムを行います。予約優先の受付となりますので、当館ホームページよりお申し込みください。

開催期間：平成28年12月の土日祝日
(但し、4日(日)、17日(土)、24日(土)、31日(土)を除く)
体験内容：石留めペンダント制作、刻印リング制作

体験プログラムに新しいメニューが加わりました！

当館で開催しております体験プログラムのうち、石留め体験はこれまでリングのみでしたが、新たにペンダントが加わりました。また石留めリングについても、これまでのものに加え、宝石の向きが横向きのもので加わりました。9月のスタート以来、大変ご好評をいただいているプログラムです。

新たな石留め体験プログラムにぜひご参加ください。



※写真はイメージです。

山梨ジュエリーミュージアム
Yamanashi Jewelry Museum

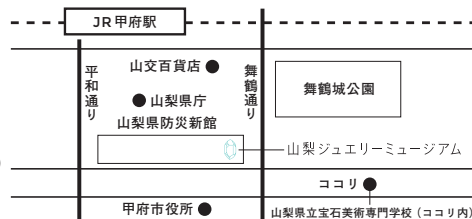
開館時間：午前10時～午後5時30分（最終入館は、午後5時まで）
休館日：火曜日（祝日の場合は、その翌日）、年末年始

※その他臨時に開館・休館することがございます。

入館料：無料 駐車場：92台（山梨県防災新館地下有料駐車場、来館者は1時間無料）

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階（山梨県庁内）

<http://www.pref.yamanashi.jp/yjm/>



cj

craftsman jewelry

2016
November

Vol.8

2016年11月発行

一級貴金属装身具製作技能士
古屋知宏

craftsman jewelry file.003 Tomohiro Furuya





職人は、静かに熱く燃えている。

親子二人で営む小さな工房。貴金属加工を専門に手掛けるジュエリーフルヤだ。父親である古屋孝夫氏のもとで、古屋知宏氏は日々、素材と向き合い、イメージをかたちにする。ジュエリーに使われる、ゴールド、シルバー、プラチナ。これらを金属の板や、線に加工して用途に応じて使い分けていく。機械ではなく、道具と自らの手でその作業も行う。そこから石を留める台など、小さなパーツを作り、組み合わせてジュエリーの原型をかたち作るのだ。留め石の大きさやかたちを模したサンプルを参照しながら、仕上げまで全て手作業で行う。金属を熱するバーナーは、プラチナとそれ以外の2種類に分かれている。素材の融点が違うためである。ガスの量を調整し、青く澄んだ炎を手元で操って、小さな金属片に灼熱の命を吹き込む。こうした手作業での組み立ては手間はかかるが、一点、一

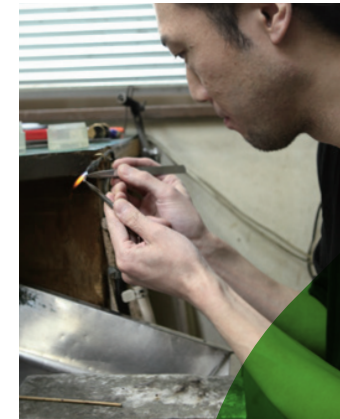
点、細かな要望に応え、高品質の商品を提供することが出来る。加工機械技術の進歩で、大量生産が主流になっているなか、知宏氏のようなスペシャリストたちが山梨県甲府市には数多く存在する。「ジュエリーの街」といわれる由縁だ。質の高いジュエリーの多くがこの街で生み出されている。

高校生のときには、漠然と、家業である工房で働くことになるだろうと考えていたという。卒業後、山梨県立宝石美術専門学校に進学しジュエリーデザインを専攻した。現在はデザインや加工まで包括的なカリキュラムとなっているが、当時は専攻ごとにコースが分かれていたという。貴金属加工は卒業後、父のもとで学べる。決して画を描くことは得意ではないが、あえてデザインに関して学んでおくことが将来の自分の仕事につながると考えた。ジュエリーフルヤのもとへと

やってくるデザイン画は、詳細な展開図が描かれた設計図とは一線を画す。デザイナーによるスケッチを頼りに、デザインの意図を汲み取らなければならない。360度、具現化したかたちをイメージで補完しながらの制作は、素材を切り、削って、磨き、組み上げていく地道な作業。微細な調整と丹念な仕上げを経て、金属のかたまりを宝飾品としての表情へと生まれ変わらせるのである。父であり師の孝夫氏、そして依頼先、デザイナー、商品に携わる全ての人が納得のいくものをその手で作ることが出来たときは、喜びもひとしおだ。

かつて、デスクの数だけいた職人たちもまた、それぞれがこの工房で修業を積み、独り立ちしていった。今は父と二人、ジュエリーフルヤを切り盛りしている。「何より、続けていくことが大切」。今後の目標を聞くと、知宏氏は控えめな口調でそう答えた。シンプルでありながら、最も大変なチャレンジなのかもしれない。贅沢品であるジュエリー産業はいまや作れば売れる時代ではなくなった。どんなプロダクトにも言えることだが、品質や、商品の背景が求められる時代である。そうした状況のなかで父の技術を受け継ぎ、伝えていくことは、自身がいいものを作り続けることにほかならない。孝夫氏は、よくやってくれていると、知宏氏が席を外した際にその仕事ぶりについて述べた。「工房で二人きりだからね。欲を言うならば違う職人の技や新しい感性をこれから吸収できる機会があるととってもいいと思います」。唯一の師は息子の職人としての成長を寛大に見守り、静かに背中を物語る。偉大なる父の背を追ひ、培ってきた貴金属加工技術を受け継ぐために、知宏氏は黙々と作業

台に向かう。加工台として留めておく50cmほどの角材は、日々の作業によって、小さくすり減っていた。年月を経て川を転がって磨かれた、角のない岩石のように。甲府の街の片隅で貴金属加工に注ぐ情熱が、バーナーから出る青い炎さながら、熱く静かに燃えている。



古屋知宏(ふるやともひろ)
一級貴金属装身具製作技能士。山梨県立宝石美術専門学校非常勤講師。父、古屋孝夫氏とともに、ジュエリーフルヤを営む。山梨ジュエリーミュージアムコレクション作品「希望」の貴金属加工を手掛ける。

ジュエリーフルヤ
山梨県甲府市屋形1-8-26 Tel:055-252-3332

古屋知宏氏による実演 及び体験指導

1月28日

平成29年1月28日(土)に古屋知宏氏による貴金属加工の実演及び体験指導が実施されます。お気軽にお立ち寄りください。

